

SAFe®導入・実践するにあたって の勘所と、それを支えるITツール



SAFe® DAY JAPAN

スポンサー共催ウェビナー

自己紹介



TDCソフト株式会社 ビジネスイノベーション本部
ビジネスイノベーション事業推進室

真川 太一（さながわ たいち）

Sanagawa@tdc.co.jp



TDCソフトに入社後、プログラマ、システムエンジニア、プロジェクトマネージャ、製品企画、パッケージコンサルタント（ERP、BI）などITシステムを20年ほど経験。現在は、お客様のビジネス立ち上げ支援をミッションとする部門に所属。IT実装とビジネスの両方の視点とこれまでの幅広い知見をもとに、SAFe®プログラムコンサルタントとしてお客様のSAFe®導入のコンサルティング、トレーニング講師を担当。

自己紹介

NTT DATA

株式会社NTTデータ システム技術本部
デジタル技術部 Agileプロフェッショナル担当

近藤 陽介（こんどう ようすけ）

yohsuke.kondoh@nttdata.com



NTTデータに入社後、データベースエンジニアとしてNoSQLに関するR&D、技術支援に従事したのち、2015年より現担当。

Agile案件の支援を通じてScrum MasterやAgileコーチを経験し、2年前にSAFe®プログラムコンサルタントの認定を取得。現在は社内のSAFe®導入案件においてRTE（Release Train Engineer）を担当。

本日の内容

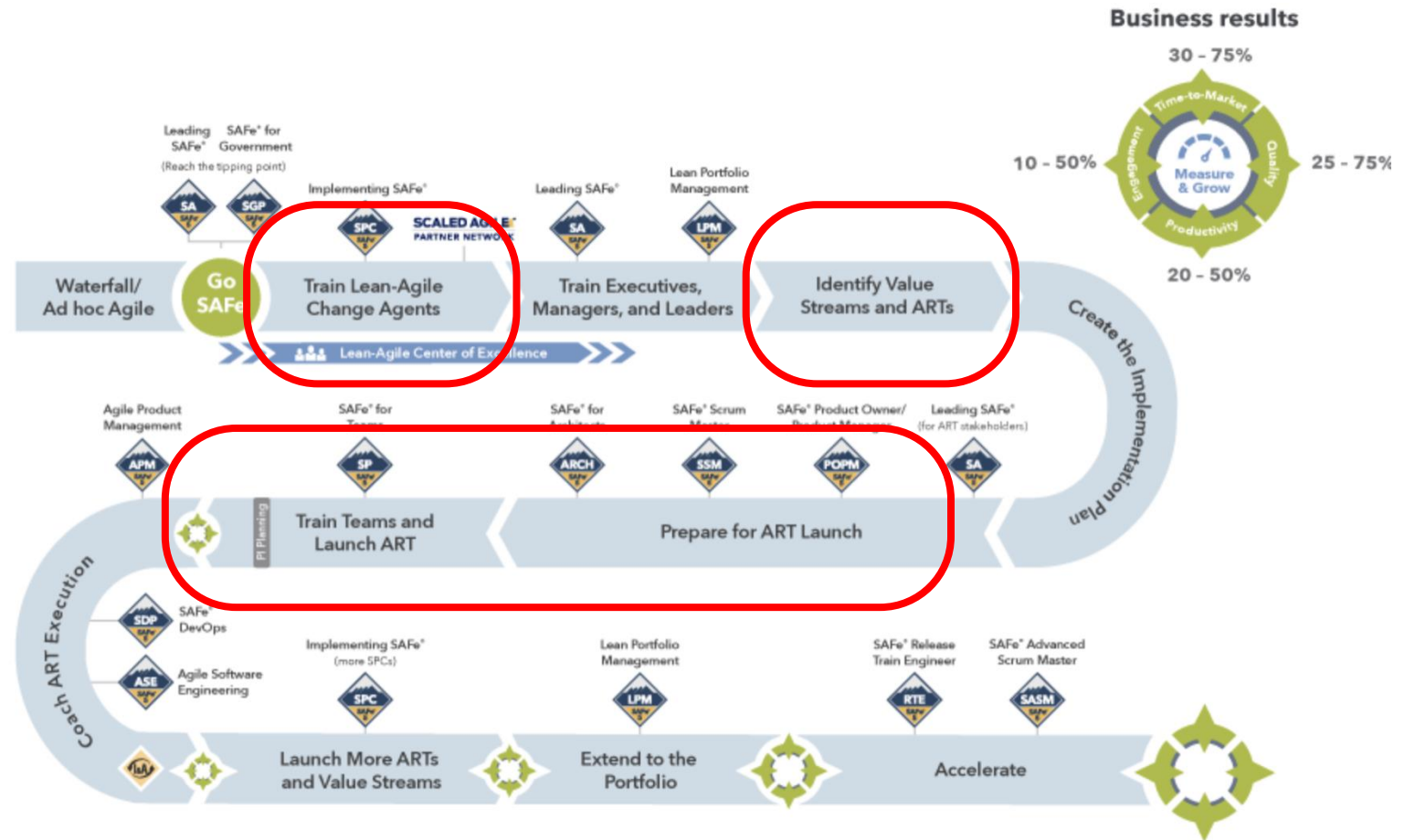
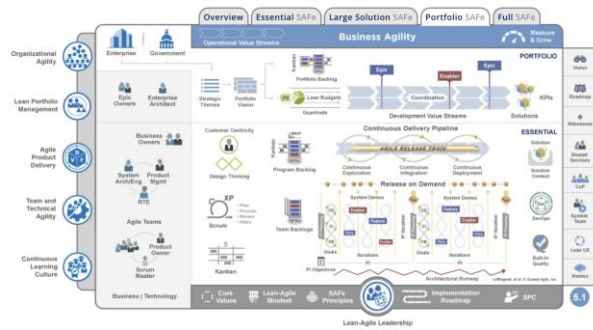
企業内にSAFe®を導入するにあたって、王道であるImplementation Roadmap の中でも、特に重要な3つのポイント

- 変革推進チーム（LACE）の編成
- 価値創出プロセス（バリューストリーム）の特定
- 全体の意思統一と計画策定のイベント（PI Planning）の準備～実施

に絞って、SAFe®が語る理想と日本企業の現実のギャップに対して、実際に導入企業の「事例」を交えて、導入のエッセンスと支えるツールを交えてお話しします。



Implementation Roadmap



LACEの編成

(Lean Agile Center of Excellence)

LACEの編成

(Lean Agile Center of Excellence)

企業内の変革を推進するチーム。価値提供に対してのビジネスアジリティを高めることに関係する組織のリーダーが集まって、どう変革を推進していくかを考え、実行を促進する。

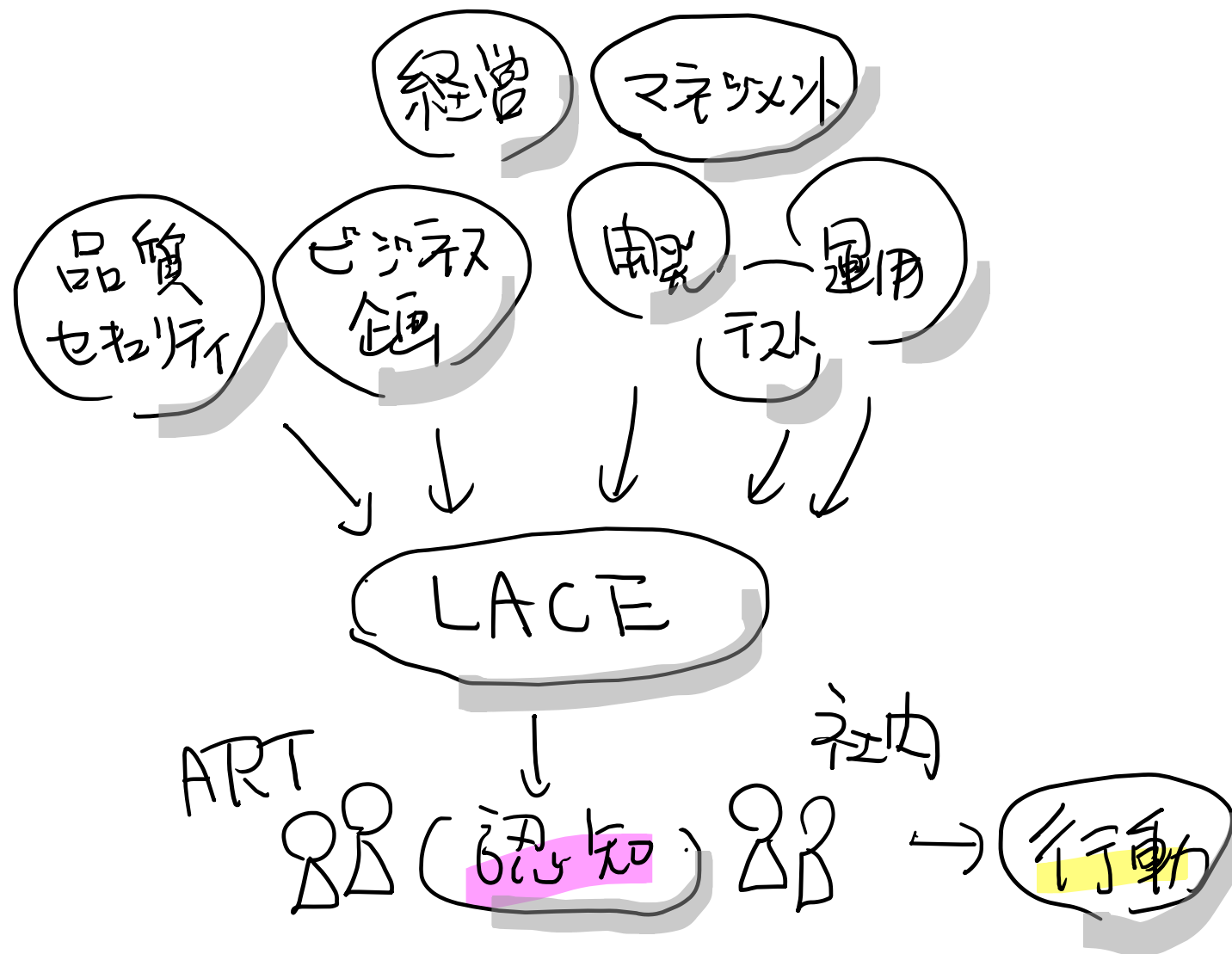


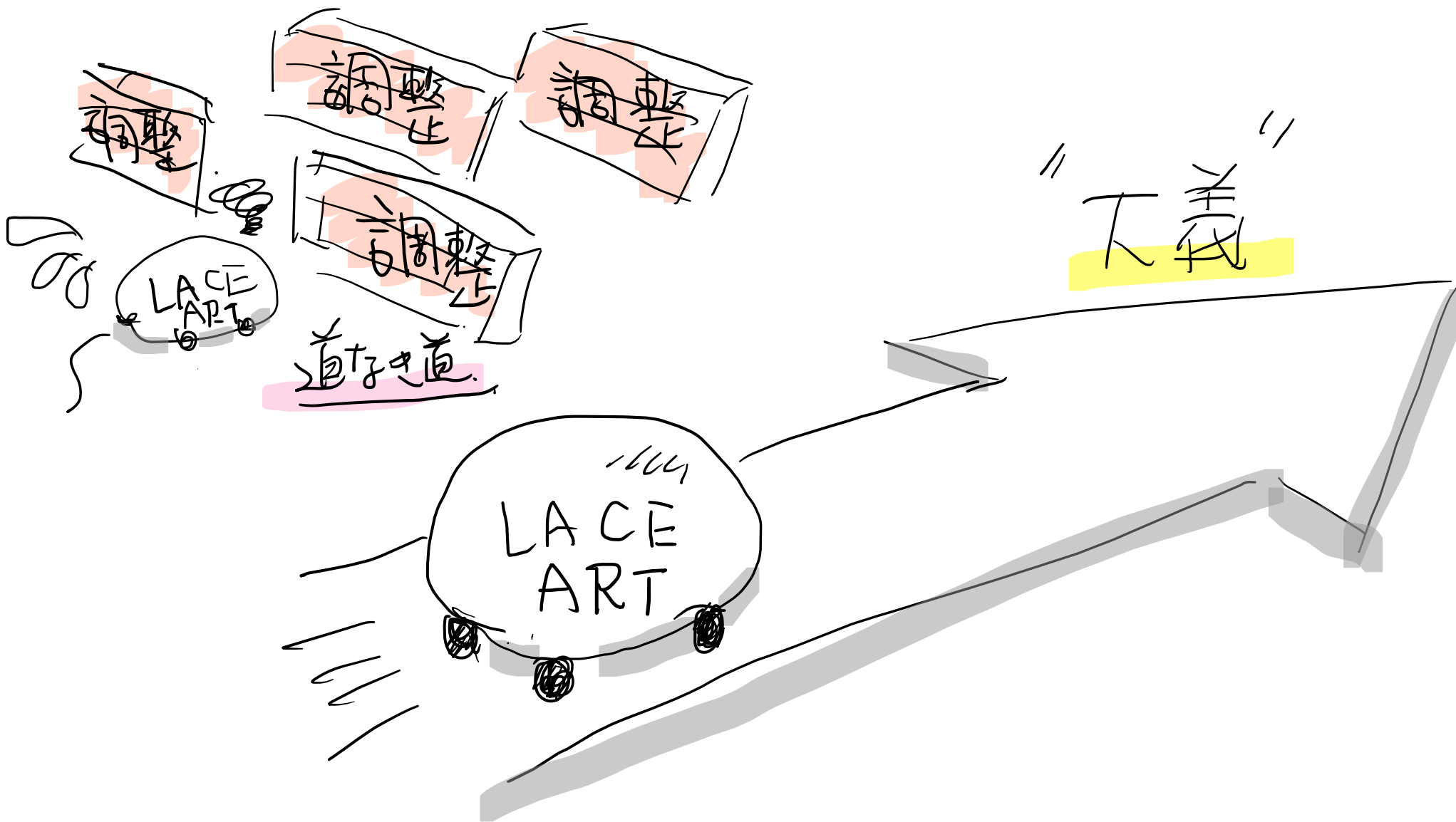
理想

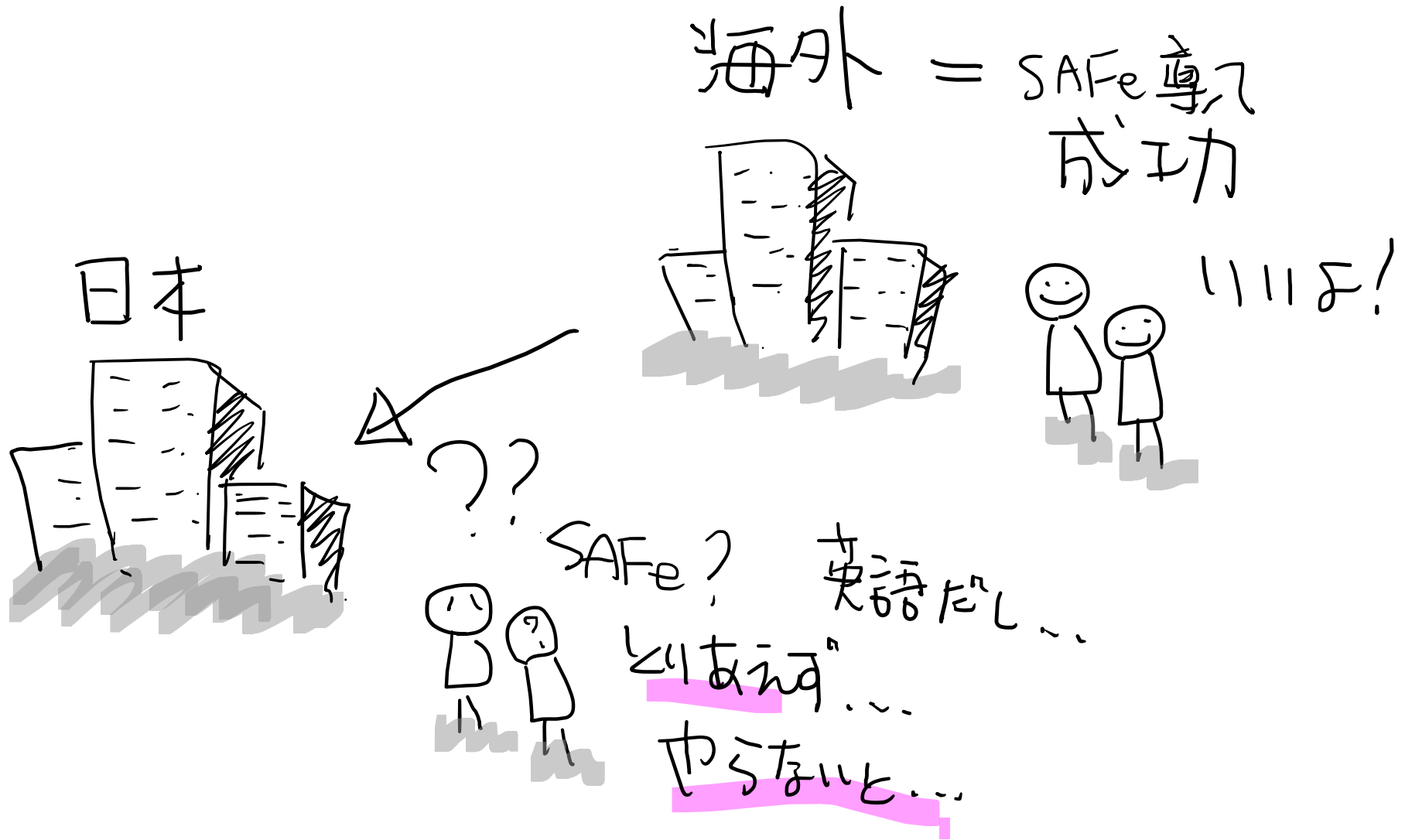
- ・企業内（組織）でこのチームと役割が認知されている
- ・権限を持った方がチームに存在している
- ・SAFeの知識を理解している
- ・外部でなく、内部の方でSPCの資格を保有している方がいる
- ・導入目的が腹落ちできている。

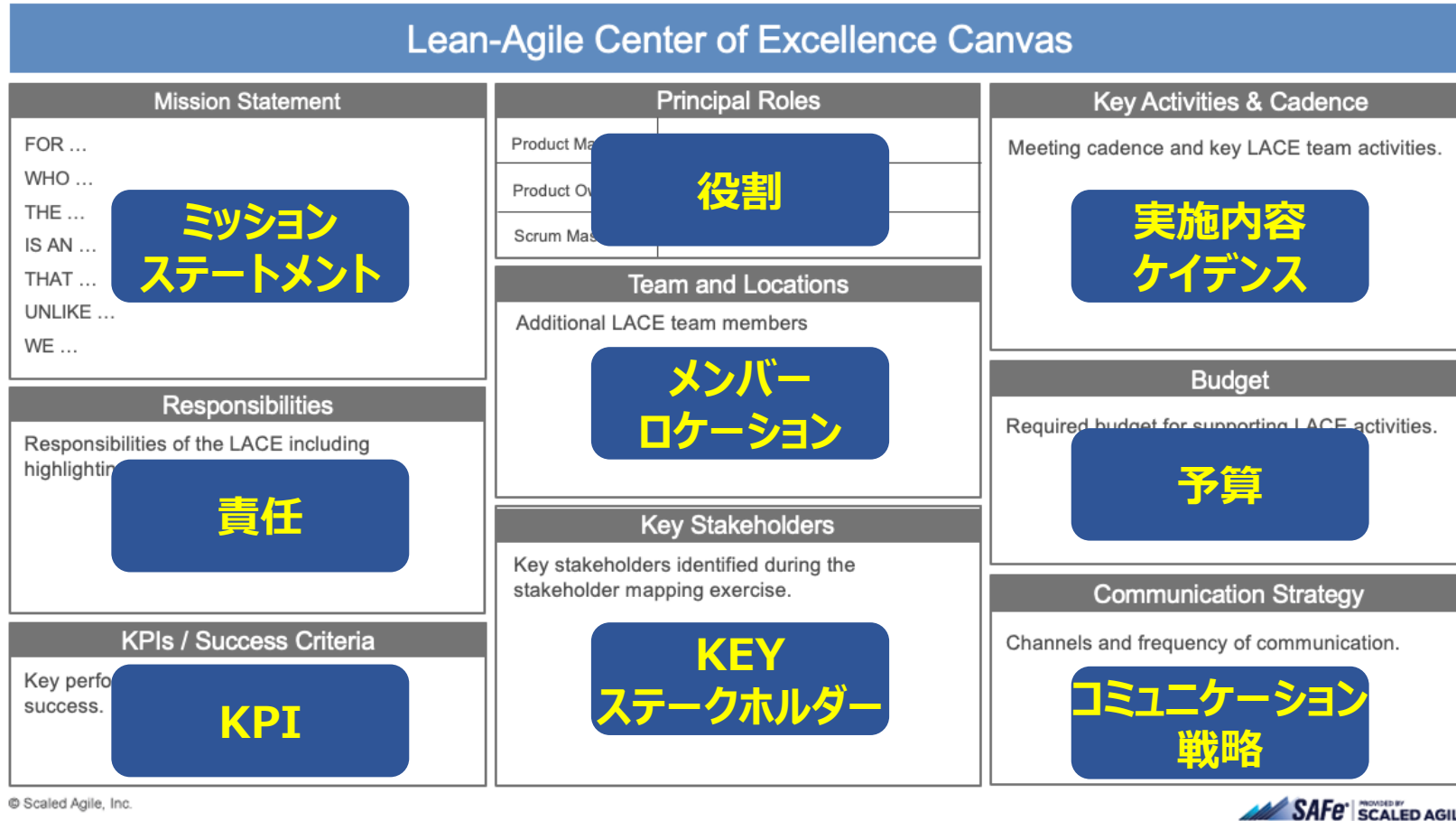
現実

- ・LACEとして存在意義が認知されていない状態で、推進をしなくてはならない。
- ・チームメンバーに権限がない。
- ・トレーニング受けたがらない。特に役職を持たれている方々。時間がない。。
- ・SAFeの導入を目的にしがち
- ・事務局色が強くなり、現場との距離感が出てしまう









LACEキャンバス

まとめ

対策とツール

- ・ **目的の明確化と腹落ち**
(LACE キャンバス、変革ロードマップ)
- ・ **トップのコミットと周知、広報活動**
- ・ トレーニング (もツール)
- ・ ホワイトボードとワークショップ

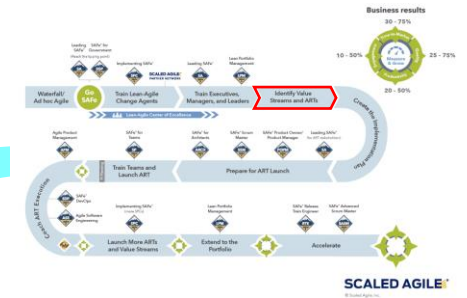
価値創出プロセスの特定

(Value Stream)

価値創出プロセスの特定

(Value Stream)

企業（組織）が顧客に提供する価値の創出プロセスと、そのプロセスを実現するために必要なシステムと人員、さらにはシステムを開発・運用するためのプロセスと体制（ART:Agile Release Train）を明らかにする



理想

- ・プロダクトの戦略が明確になっている。
- ・プロジェクトでない（価値を永続的に提供するもの）
- ・プロダクトマネージャが存在している
- ・製品ロードマップが引かれている
- ・バリューストリームに関わる人たちがアサインされている。

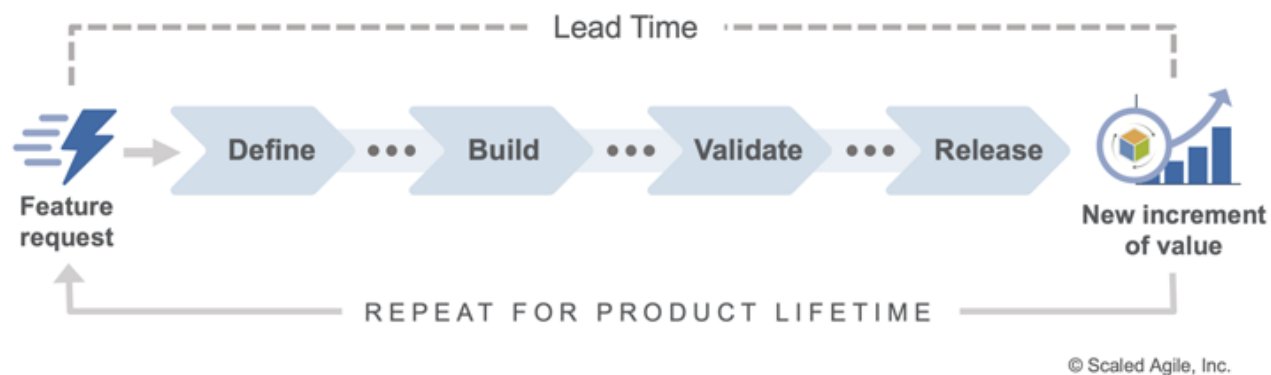
現実

- ・ゼロベーススタートはやりやすい。既存プロダクトの場合結構複雑で定義しづらい。
- ・バリューストリームを定義せずに、ARTを編成してしまう。
- ・IT側だけでARTを編成してしまう。
- ・改善すべきプロダクトの戦略と現状のバリューストリームがリンクしていない。
- ・プロジェクト型での定義となってしまうことが多い。
- ・組織でバリューストリームを分けてしまい、価値が異なる大規模チームとなる
- ・プロダクト責任者を設定できない（人材不足等）

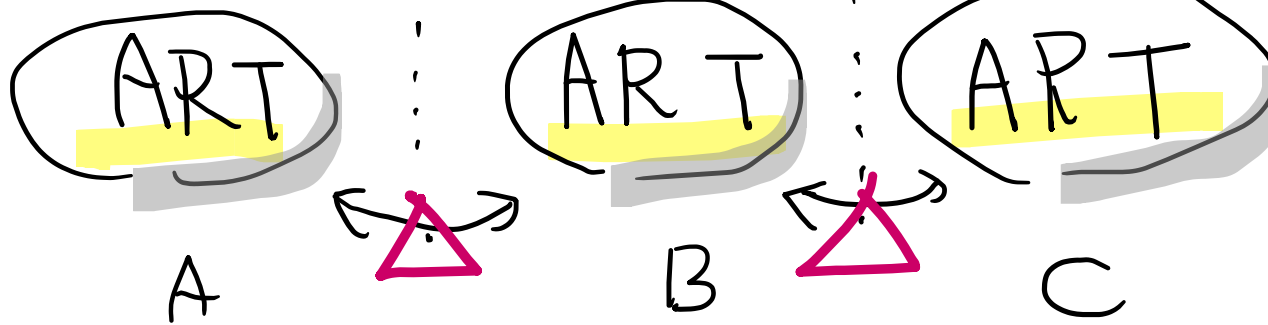
あるべき
作り方

戦略

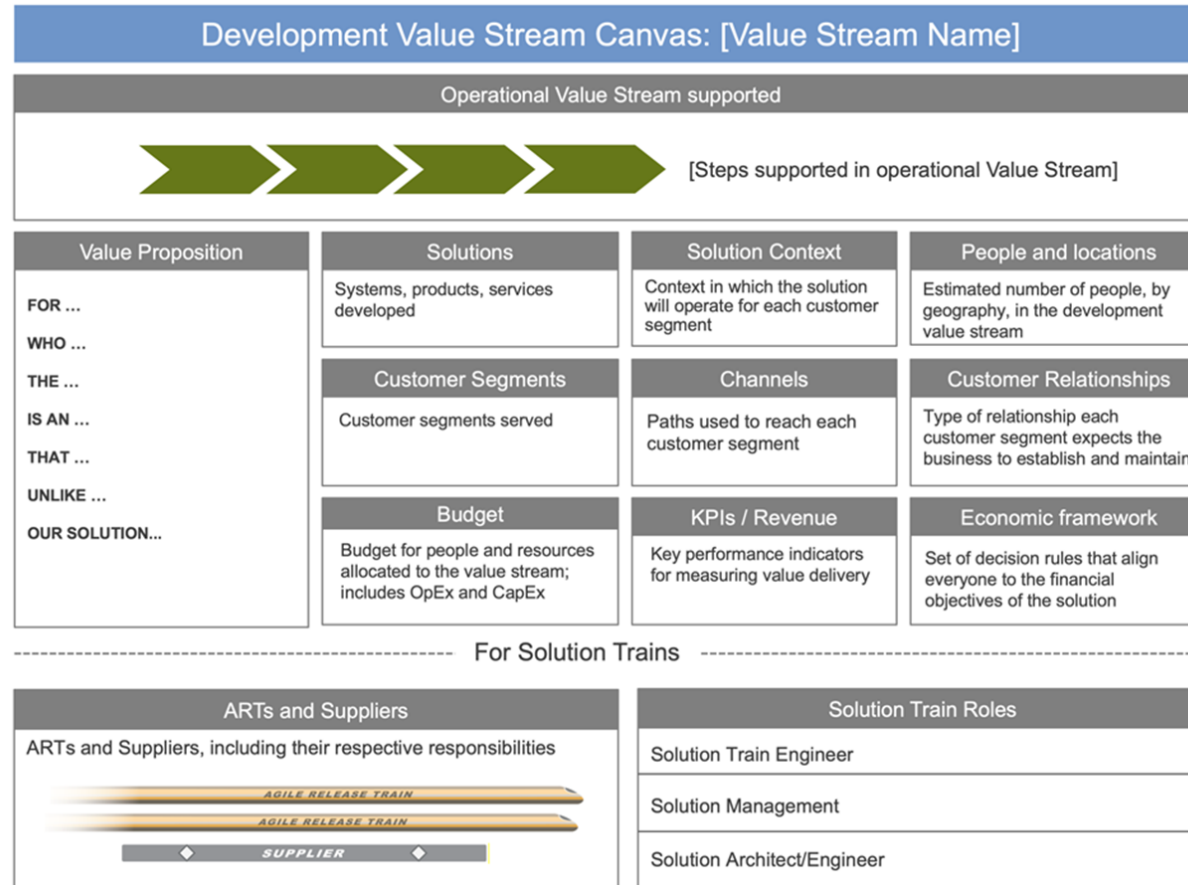
Value Stream



システムから作る



流れは早い

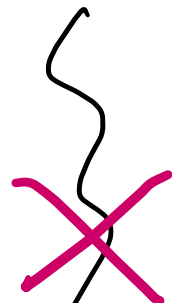


Value Stream マッピング

ビジネス

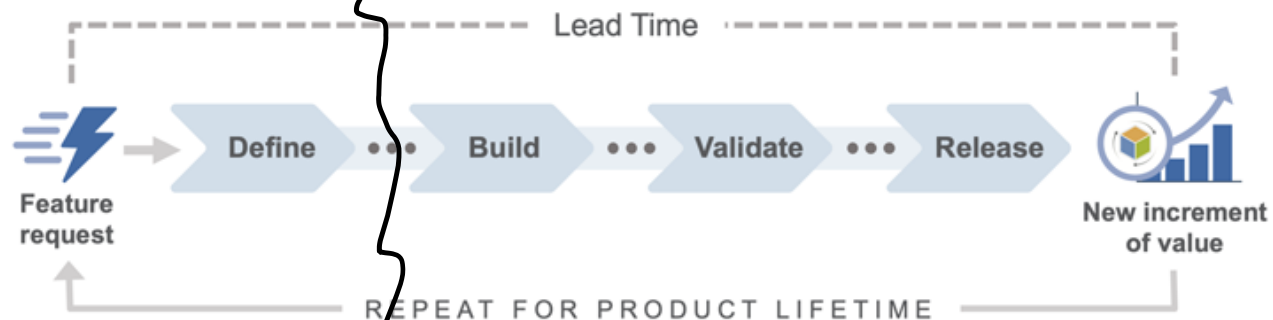
IT

ビジネス
企画



開発

運用

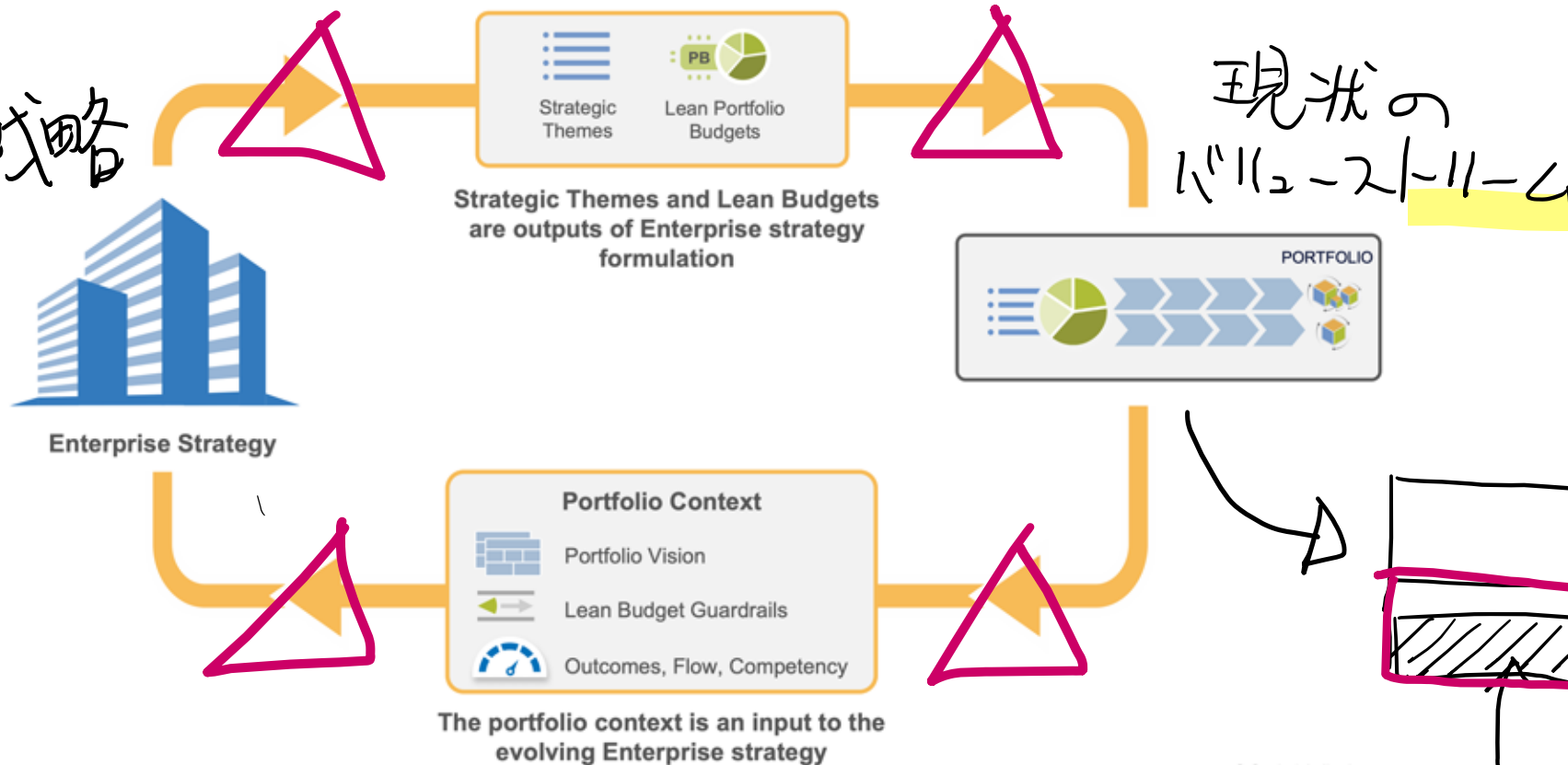


© Scaled Agile, Inc.

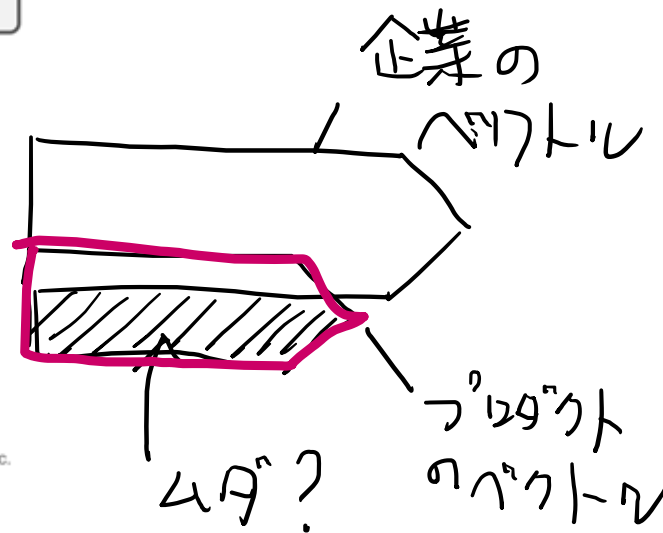
Value Stream

製品・サービスの戦略

企業戦略



© Scaled Agile, Inc.



まとめ

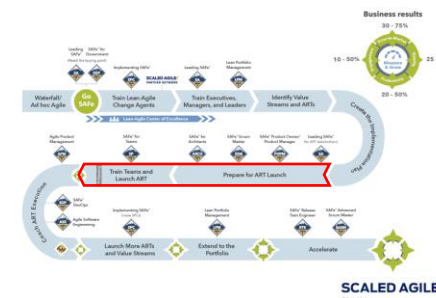
対策とツール

- ・企業の戦略とプロダクト戦略を改めて定義（LPM）
- ・Product型に再定義。
- ・**Value Streamワークショップの実践（改めて再定義、カスタマージャーニーマップ、VSキャンバス）**
- ・**ビジネスの方も巻き込む（トレーニングの有効活用）**
- ・ART（開発体制）の適宜見直し

PI Planning の準備～実施

PI Planning の準備～実施

ステークホルダー、ビジネス関係者および複数のアジャイル開発チームの全員が集まる2日間のイベントで、ビジネスやプロダクトの状況・ビジョンを共有した上で、直近3か月でARTが達成する目標とチームの実行計画と目標、全体リスク、チーム同士の依存関係を明らかにするイベント。

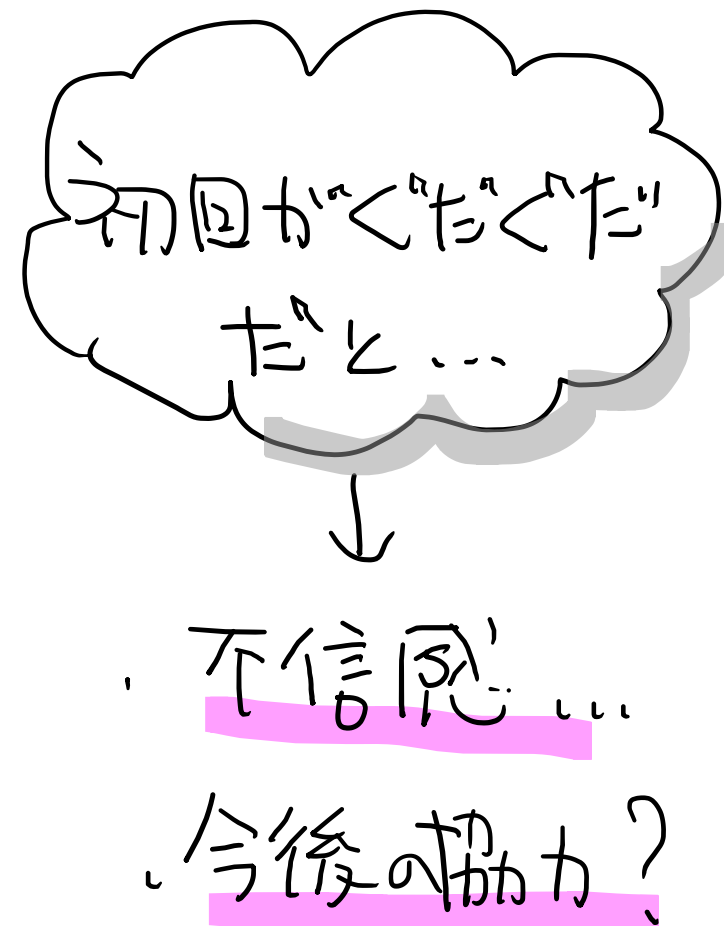
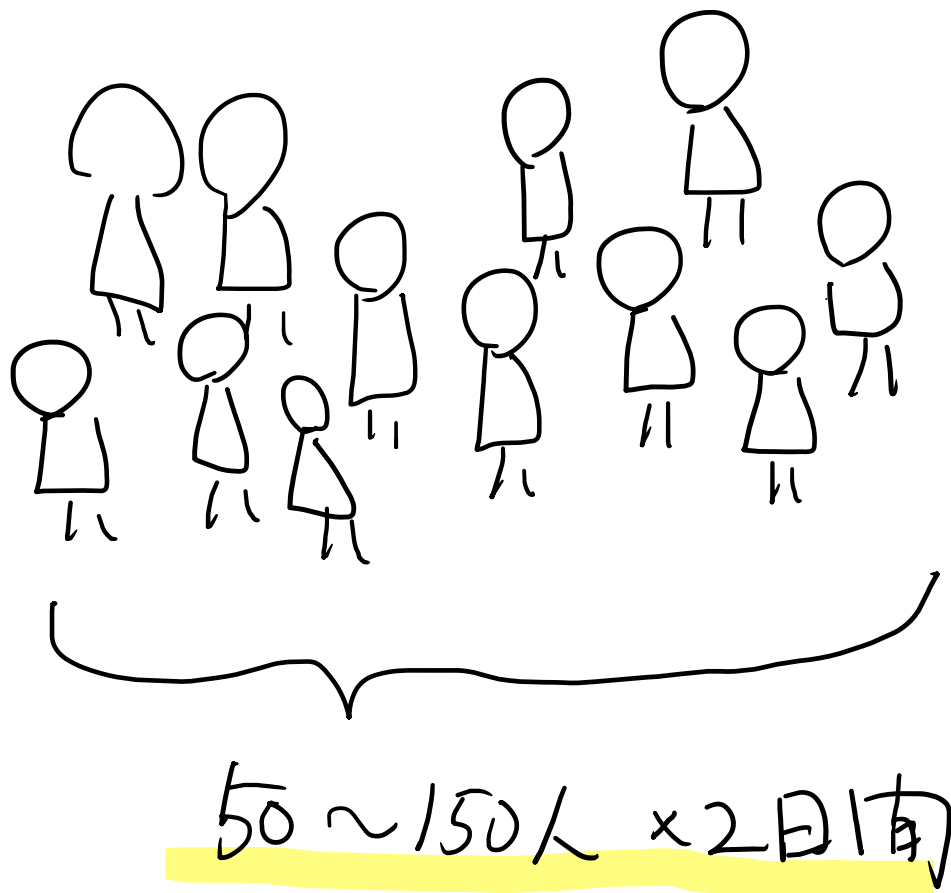


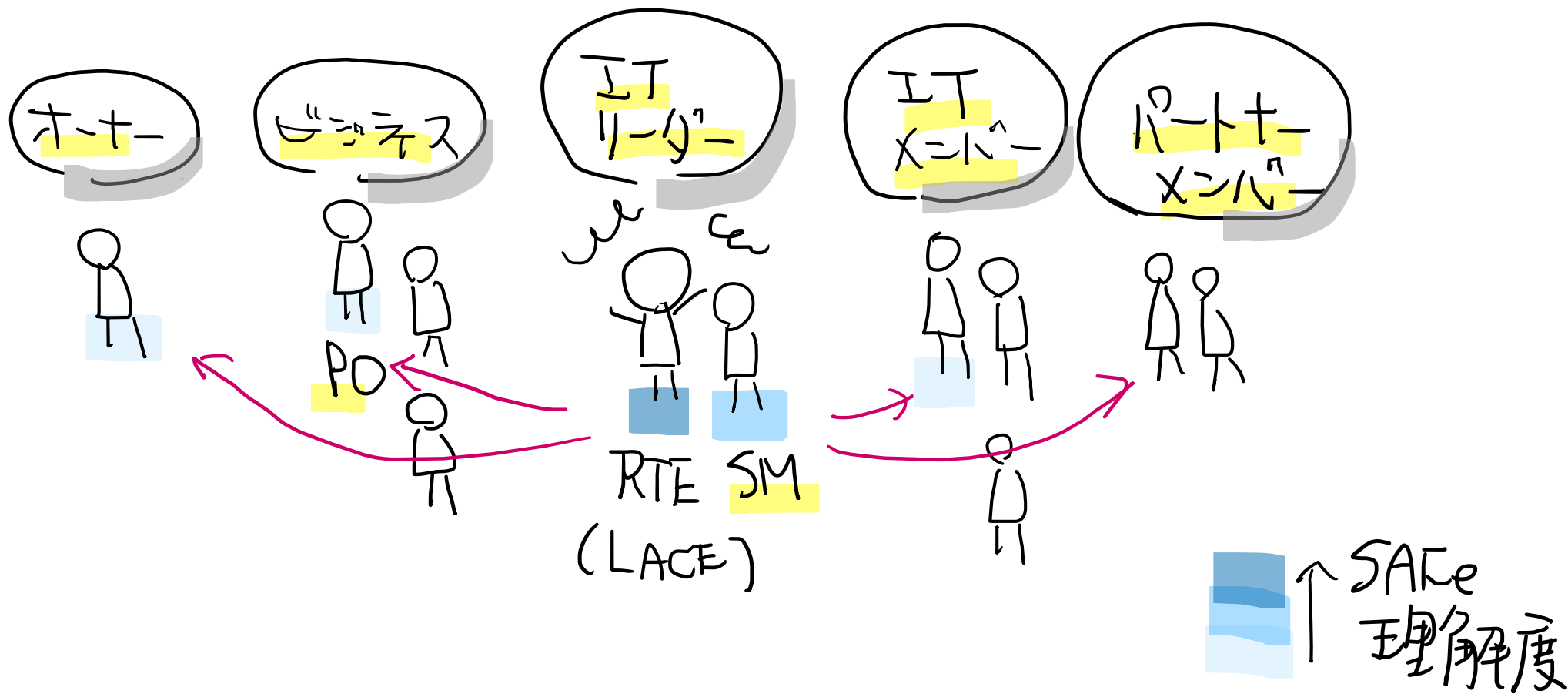
理想

- SAFeのトレーニング（SAFe for Teams等）を受けている
- 多数がアジャイルの知識/経験を持っている。
- 対面で実施できる
- ステークホルダーが理解を示して参加
- ロードマップが存在している

現実

- 開発者でアジャイル経験者は、アサインしにくい
- 理解者が少ない状況で実施
- コロナ禍で対面は不可
- 2日間の予定が取れない
- ステークホルダーのアサインに予定が左右される





まとめ

対策とツール

- ・ステークホルダーに実施の方針を示してもらう。
- ・トレーニングを実施（アジャイルマインドセットを注入）
- ・**協力者を得ることと、事前の準備を念入りに実施。**
- ・**理解が少ないチームに関してRTEがしっかりガイドすること。**
- ・**ITツールは必須。**
- ・PI開始前にチームにスクラムの経験を積んでもらう

プロセスを支えるITツール

コミュニケーション&可視化

マネジメント&可視化

オフライン

物理
オフィス

付箋紙

模造紙

バーチャル
オフィス

オンライン
会議

チャット
ツール

オンライン
ホワイトボード

バックログ
(フィーチャー
&ストーリー)

ナレッジ
蓄積&活用

かんばん

レポート
(状況)

ポートフォリオ
マネジメント

コミュニケーション&可視化

オフライン



バーチャル
オフィス

•oVice

オンライン会議

•Zoom
•Teams

チャットツール

•Mattermost
•Teams
•Slack

オンライン ホワイトボード

•iObeya
•Whiteboards for Jira
•Miro
•Mural
•Google Jamboard
•MS Whiteboard

マネジメント&可視化

バックログ
(フィーチャー
&ストーリー)

•Jira
•Redmine
•Azure DevOps

ナレッジ
蓄積&活用

•Jira Confluence
•Sharepoint
(Teams)

かんばん

•Jira
•Trello
•MS Planner

レポート

•Jira

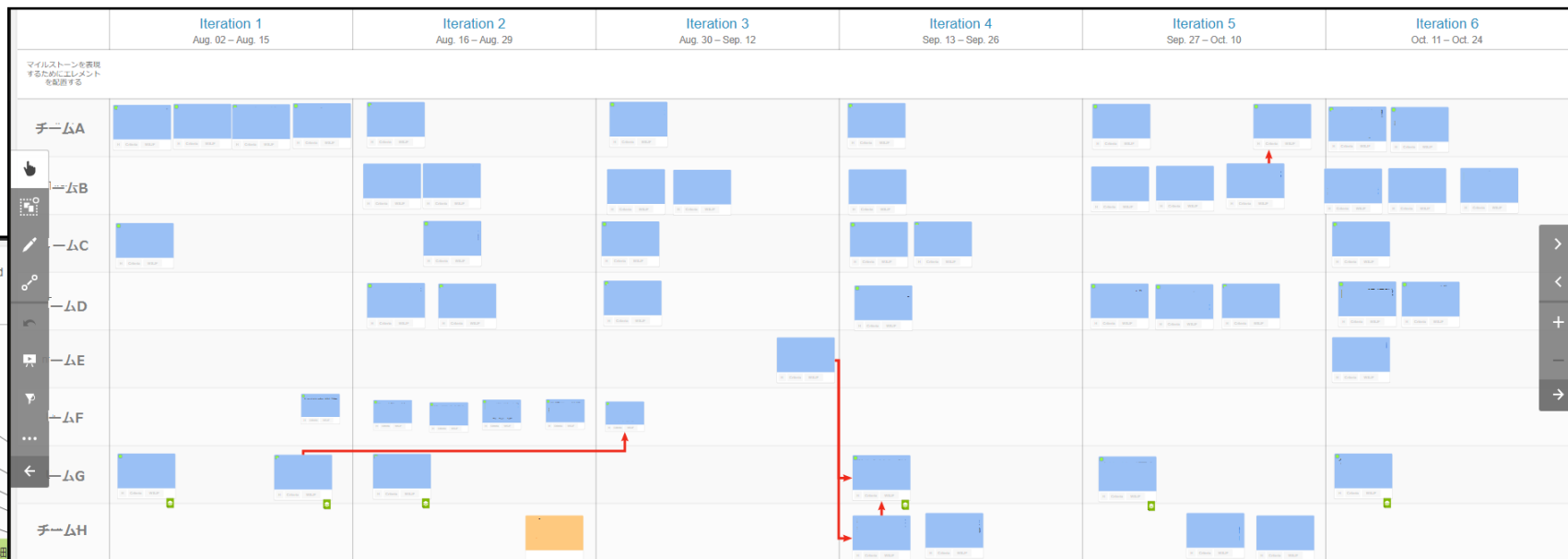
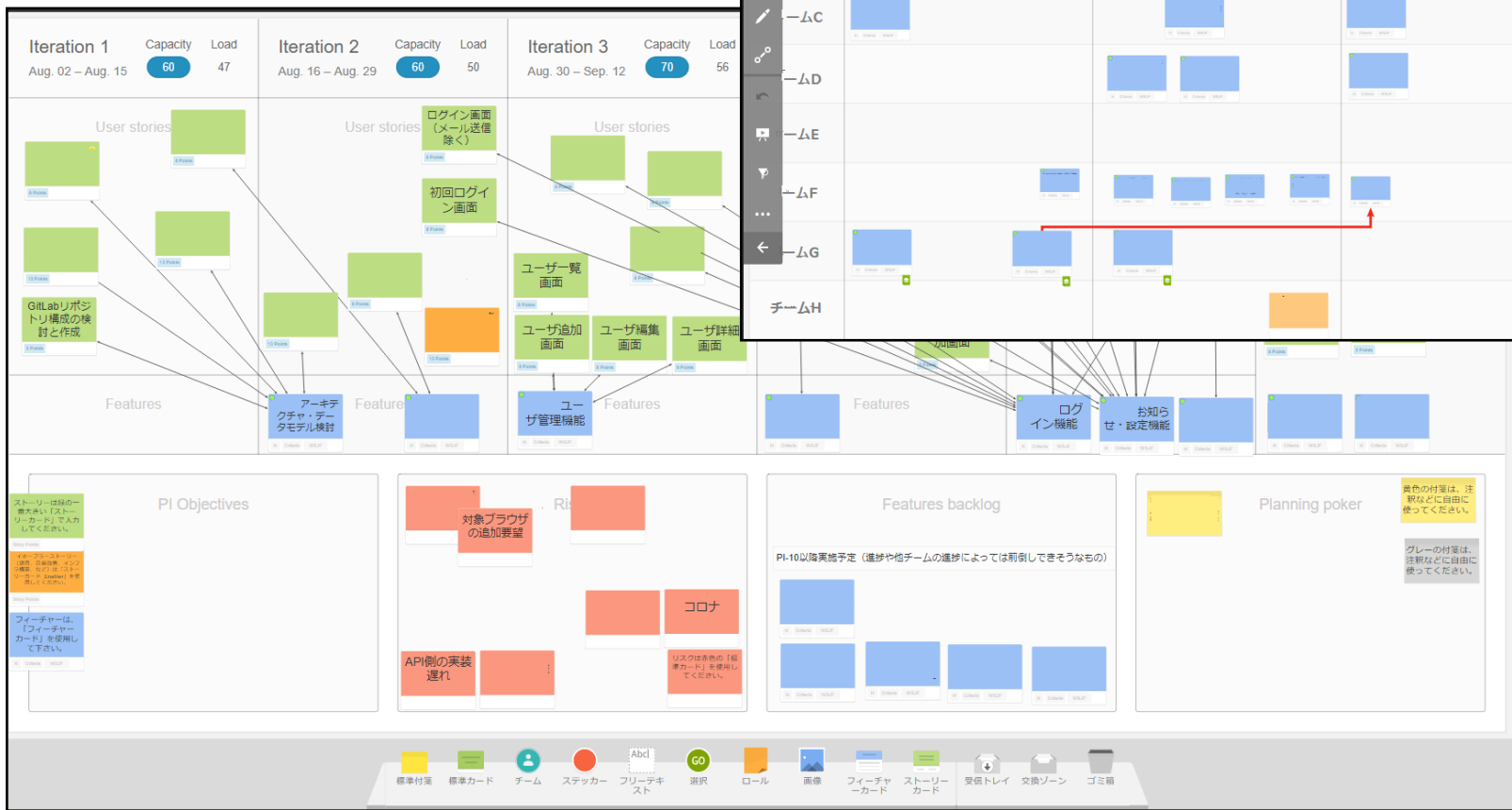
ポートフォリオ
マネジメント

•Jira Align

オンライン

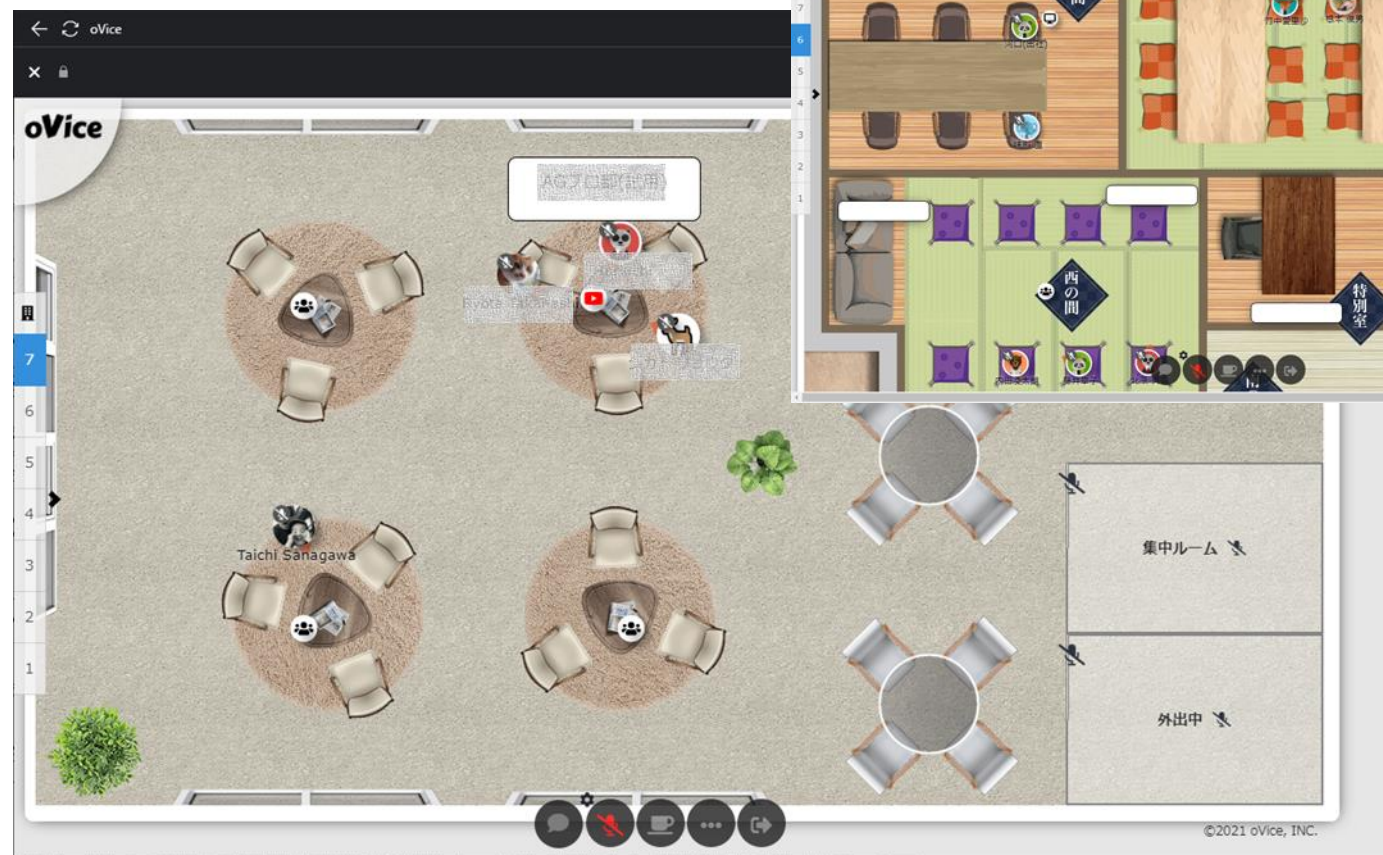


チームボード



プログラムボード

oVice



まとめ

ツール

- ・意識あわせをするための**共同編集機能**は必須
- ・サポートツールといえど、**品質**は大事
(特に大人数のシチュエーション)
- ・様々な人が参加するため、習熟度を確認し、**フォローが必要**

さいごに

さいごに

「ビジネスアジリティ」を目指すために、「共通理解」、「共通認識」をあわせていく、言葉をあわせていくことが大事。

近藤

「コミュニケーション」、「対話」も重要なエッセンス。それを支えるITツールを整備することは、SAFe導入の大事なポイント。

真川

ご清聴ありがとうございました。

TDCソフトへのお問合せ： safe@tdc.co.jp

NTTデータへのお問合せ： safe@kits.nttdata.co.jp